

令和6年度 助産師職能委員会 活動報告

■委員名

委員長：竹崎裕子

副委員長：都留美恵子

委員：岩崎加代 宿見めぐみ 大野美香 野牧弘子 上田めぐみ 峯岸美恵子
 長井亜矢子 岡田知子 牛越幸子

■活動目標

1. 母子のための地域包括ケアシステム推進に向け他職種連携を強化する
2. 助産師が専門性を発揮し、質の高い看護を提供できるよう支援する

■委員会開催状況と検討内容

回	開催日	出席者	内容
1	令和6年4月6日	7名	・令和5年度活動報告の検討 ・令和6年度活動計画の検討 ・妊娠SOS相談事業及び特定妊婦居場所確保・自立支援事業連携会報告
2	令和6年5月17日	11名	・保健師助産師看護師合同職能集会について検討
3	令和6年7月6日	11名	・助産師職能委員会の日程確認 ・活動計画の確認、役割分担
4	令和6年9月7日	11名	・助産師職能交流会の企画 ・近畿地区助産師職能合同研修会の企画 ・保健師助産師交流会の企画
5	令和6年10月18日	11名	・近畿地区助産師職能合同研修会の企画 ・保健師助産師交流会の企画 ・令和6年度活動報告の検討 ・地区別助産師職能委員長会に向け情報収集
6	令和6年11月2日 (オンライン併用)	5名	・保健師助産師交流会の企画 (保健師職能委員3名と助産師職能委員5名)
7	令和6年11月30日	11名	・助産師職能交流会 ・保健師助産師交流会の企画
8	令和6年12月21日	9名	・近畿地区助産師職能合同研修会 ・令和7年度活動計画の検討
9	令和7年1月17日	11名	・保健師助産師交流会の企画 ・令和6年度活動報告の検討 ・近畿地区助産師職能合同研修会の振り返り ・令和7年度保健師助産師看護師合同職能集会の企画
10	令和7年2月8日	8名	・保健師助産師交流会 ・令和6年度活動計画の検討
11	令和7年3月14日	9名	・令和6年度活動報告の検討 ・令和7年度保健師助産師看護師合同職能集会の企画

■活動内容	1. 保健師助産師看護師合同職能集会 日 時：令和6年6月20日 9：30～12：00 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） 内 容：令和5年度助産師職能委員会活動報告 令和6年度助産師職能委員会活動計画 特別講演 テーマ：中堅看護師を支える・育てる“コツ”と効果的な関わり方 講 師：愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター 助教 内藤知佐子 氏 参加者：268名（会場119名 オンライン149名） 2. 保健師助産師看護師合同交流会（悪天候のため中止） 日 時：令和6年8月31日 13：30～16：00 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） 内 容：「看護職のためのアンガーマネジメント」 ～私たちの感情コントロールで職場を変えよう～ 講 師：横浜市立大学医学部看護学科 講師 田辺有理子 氏 3. 助産師職能交流会 日 時：令和6年11月30日 13：30～16：00 場 所：兵庫県看護協会会館 テーマ：混合病棟で働く助産師のメリットデメリット ～少子化時代に合わせた働き方を伝え合おう～ 参加者：20名 4. 近畿地区助産師職能合同研修会（兵庫県看護協会主催） 近畿地区の助産師間の交流を目的とした研修会へ参加する 日 時：令和6年12月21日 10：00～11：40 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン配信） テーマ：「父親支援について学び、家族のメンタルヘルスを支えよう」 講 師：NPO 法人ファザーリング・ジャパン関西 理事 阿川勇太 氏 参加者：191名 5. 保健師助産師交流会 日 時：令和7年2月8日 13：30～16：30 場 所：兵庫県看護協会会館 テーマ：「助産師と保健師の協働で紡ぐ健康な未来 ～プレコンセプションケアを考える～」 講 師：公益社団法人小さないのちのドア 代表理事 永原郁子 氏 参加者：31名 6. 兵庫県看護協会が主催する助産師資質向上研修の支援 助産師実践能力向上研修会 新人助産師研修「分娩期の看護」、「産褥期の看護」、「チームで乗り切ろう！分娩 各期のリスク対応」の講師担当
--------------	--

■活動の評価	1. 母子のための安全・地域包括ケアシステム推進に向け他職種連携を強化する。 助産師は、妊娠前から育児期まで、妊産褥婦に切れ目のない支援を行っている。男性の育児休暇・産後パパ育休体制も整ってきたが、父親のうつと孤立が課題となっており父親への支援も必要である。そこで、近畿地区助産師職能合同研修会では「父親支援について学び、家族のメンタルヘルスケアを支えよう」というテーマで研修会を開催した。医療者以外にも兵庫県職員の参加があった。実際に父親が産後うつになる背景などを学び、父親への支援を再考する機会となった。今後の取り組みとして、地域と連携を図り母児と父親を含めた家族に対して積極的に支援していく。 保健師助産師交流会では、保健師職能と連携を図ったことで課題を明らかにし、「助産師と保健師の協働で紡ぐ健康な未来～プレコンセプションケアを考える～」の講演を企画開催した。望まない妊娠の事例に対して看護職が対象者に寄り添い支援していくことの大切さを学ぶことができた。アンケート結果より、講演内容は非常に満足グループディスカッションでは保健師助産師リエゾン等の活発な意見交換・交流の場であったと評価されており、他職種連携の強化につながる交流会となった。今後、助産師職能と保健師職能の交流会は継続し、看護職が専門性を発揮できるよう多職種と協働・連携を図っていく。 2. 助産師が専門性を発揮し、質の高い看護を提供できるよう支援する。 助産師資質向上を目的とした研修では、新人助産師研修「分娩期の看護」「産褥期の看護」、リーダークラスの看護師助産師を対象とした「チームで乗り切ろう！分娩各期のリスク対応」を助産師職能委員が担当した。アンケート結果より、研修のねらいと内容理解と実践に役立つかについても、高い評価を得られた。しかし、「チームで乗り切ろう！分娩各期のリスク対応」では参加者が少人数であり、次年度は研修内容を周知し、参加者増加につなげていく。 近年、分娩取扱施設の集約化、分娩件数の減少により産科混合病棟が増加している。そこで、混合病棟で働く助産師がモチベーションをもって混合病棟のメリットを若手助産師へ伝えていくことをねらいとした助産師職能交流会を開催した。アンケート結果は、満足度の高いものであった。しかしながら、参加者が少なかったことが課題であり、他の研修と日程が重複したことも要因と考えられ、今後研修の日程も考慮が必要である。グループディスカッションで、各施設での現状、メリット・デメリットについて話し合った。デメリットをメリットに変えられるような取り組みを考えることができた。今後も、女性やその家族に対してより良い健康保持・増進を目指した支援を行っていく。
■今後の課題	・女性とその家族への健康支援 ・産科混合病棟の増加に伴う産科区域特定の推進